

平成 30 年 8 月 30 日 (木)  
午 前 1 0 時 0 0 分  
特 別 会 議 室

## 吹田市総合教育会議

### 次 第

#### 1 学校教育施設の環境改善について

#### 配付資料

- 資料 1 「これまでの協議事項」
- 資料 2 「学校教育施設の状況」
- 資料 3 「吹田の教育に関する分析」平成 2 8 年度版
- 資料 4 「吹田市教育大綱」

## 総合教育会議のこれまでの協議事項について

初年度については、教育大綱を策定し、教育の方針について協議しました。

平成28年度以降については、SWOT分析を活用しながら、主に学校運営について協議してきました。

年度		案件名
平成27年度	第1回	(1) 総合教育会議の運営について
		(2) 今後の会議について
	第2回	(1) 教育の大綱の策定について
		(2) 緊急時の招集について
		(3) 教育委員会の所管業務の見直しについて
		(4) 重点的施策について
	第3回	(1) 教育の大綱の策定について
		(2) 教育委員会の組織見直しについて
		(3) いじめ防止基本方針について
	第4回	(1) いじめ防止基本方針について
		(2) 総合教育会議を踏まえた平成28年度予算編成について
	平成28年度	第1回
第2回		(2) 吹田の学校教育の現状について
第3回		(3) 吹田の学校教育現場の支援について
平成29年度	第1回	(1) 吹田の学校教育現場の支援について
	第2回	(2) 吹田市における各学校の特色づくりについて (学校教育の多様性支援)

## 学校教育施設の状況

## (1) 建物

## ア 現在の対応状況

- (ア) 校舎大規模改造事業や屋内運動場大規模改造事業を行い、長寿命化を図っている。(～平成36年度)
- (イ) 外壁等改修事業を行い、校舎の維持保全をしている。
- (ウ) トイレ施設整備事業として、老朽化したトイレを改修し、併せて洋式化を図っている。(～平成32年度)

## イ 今後の課題

- (ア) 校舎が分散しており、情報伝達や安全面などの機能面で質が低下している。
- (イ) 破損した個所の事後対応となっている。
- (ウ) 全てのトイレを改修できておらず、年1回の業者清掃では、未改修のトイレのにおい等が問題となっている。

## (2) 設備

## ア 現在の対応状況

- (ア) 普通教室の空調設置率は100%となった。
- (イ) パソコンを教職員へ1人1台相当、パソコン教室にタブレットPC等を43台、各校に配備し、ICTの整備が進んでいる。
- (ウ) エレベーターや階段昇降機を配置しバリアフリー化を進めている。

## イ 今後の課題

- (ア) 現計画の特別教室等への空調整備では、時間がかかりすぎるため、熱中症対策としても早急な対応が必要である。
- (イ) 無線LANの学校内の完備。
- (ウ) 教室でPCを使用した授業を行う場合、プロジェクター等の準備に時間がかかる。

○吹田の教育に関する分析

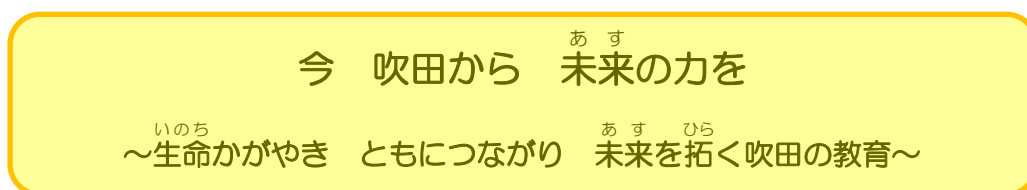
吹田の教育の現状を「強み(Strength)」、「弱み(Weakness)」、「機会(Opportunities)」、「脅威(Threats)」の4つのカテゴリーから評価するSWOT分析を用いて、評価しました。

		強み(Strength)		弱み(Weakness)	
内部環境 (学校教育)	市固有事項	<p><b>勉学に関する強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの学力(平均点)が高い</li> <li>学校の教育研究組織体制の充実</li> <li>幼小中一貫教育の取組</li> <li>市独自の副読本の作成</li> <li>小学校英語教育の充実度合</li> </ul> <p><b>勉学以外の強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを対象とした体験活動の場が多い</li> <li>課外クラブ、部活動がさかん</li> <li>取組や成果を発表する場が多い</li> </ul> <p><b>水泳に関する強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの泳力が高い</li> <li>全小学校に小プールが設置</li> <li>臨海学習の取組</li> </ul> <p><b>教育環境に関する強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SC、教育相談員の派遣による学校支援</li> <li>SSWの派遣による学校支援</li> <li>読書活動支援員を各小学校へ1名配置することによる学校図書館の活用機会の増加</li> </ul>	<p><b>人材に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育が必要な子どもの増加に伴う指導体制</li> <li>相談業務の人員体制不足</li> <li>特殊な専門分野に精通した職員の減少</li> </ul> <p><b>予算に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員用PCの不足</li> <li>児童用・教室用ICT機器の不足</li> <li>学校の特別教室の空調設備が未整備</li> <li>学校等、教育関係施設の老朽化</li> <li>学校に維持管理や備品教具の更新のための予算の確保が充実していない</li> </ul> <p><b>教育環境に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過大校と小規模校が混在し、学校規模の差が大きい</li> </ul> <p><b>組織に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館と市立図書館との連絡便が無い</li> </ul>	<p><b>対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の高い研修を受講したり、自ら最新の情報を収集したりするなどして、継続的に専門性の向上に努める</li> <li>計画を立て、教育施設・情報教育設備の整備を図る</li> <li>必要に応じて学校規模・配置の適正化や見直しを検討する</li> <li>連絡便の整備を図る</li> </ul>	
	全国共通事項	<p><b>行政との連携に関する強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合教育会議開催による市長事務部局との連携</li> </ul>	<p><b>人材に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校における管理職候補者の不足</li> <li>ベテラン教職員の大量退職</li> <li>経験の浅い教職員の占める割合が大きい</li> <li>教員の世代交代による技術の継承の難しさ</li> </ul> <p><b>格差に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済力に裏打ちされた学力の格差</li> <li>運動する子どもとしない子どもの二極化</li> </ul> <p><b>労働環境に関する弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病休教員の増加</li> <li>教職員の負担増</li> <li>教頭に業務が集中</li> </ul>	<p><b>対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校管理職・指導主事の計画的な任用・育成</li> <li>若年層からの学校管理職・指導主事の選抜・育成</li> <li>優秀な学校管理職を確保するための選考・任用制度の改正</li> <li>体育教科以外で運動をする時間を設ける</li> <li>地域のスポーツ環境の充実</li> <li>教員の増員、経験豊富な教員の配置</li> <li>社会経済的に恵まれない地域に対して、行財政的な支援</li> <li>校務のICT化の推進</li> <li>外部指導者の導入促進</li> <li>教頭の校務に関する業務を補佐する非常勤職員等の登用</li> <li>労働安全衛生管理体制の整備・充実</li> </ul>	
外部環境	市固有事項	<p><b>生涯学習にかかわる機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設を利用した生涯学習拠点への提供</li> <li>出前講座などによる学習事業</li> </ul> <p><b>市民意識にかかわる機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民の期待の高さ</li> <li>地域の人材が豊富</li> <li>地域との結びつきが強い</li> <li>市民が参画するイベント・展示等が多数ある</li> <li>青少年団体の協力・支援</li> <li>青少年関係団体を核とした地域での活動</li> </ul> <p><b>専門性を生かしたサービス等の展開にかかわる機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門職が多い</li> <li>専門職による専門相談が可能</li> <li>職員の専門性を生かしたスポーツ関連事業の展開</li> </ul> <p><b>大学との連携がもたらす機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内に5大学と大学の数が多く、大学連携がさかん</li> <li>地域に開かれた大学がある</li> </ul> <p><b>児童育成に関する機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽の広場が全ての小学校にある</li> <li>留守家庭児童育成室と放課後子ども教室事業の連携</li> </ul>	<p><b>住環境がもたらす機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公園や緑が多い</li> <li>生活環境が良い</li> <li>交通の便が良いなど、働きがりが生活しやすい住環境</li> <li>子育て世代の増加による、こどもの数の増加</li> </ul> <p><b>施設の充実がもたらす機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年相談の拠点施設がある</li> <li>エキスポシティ(OEV)や、市立吹田サッカースタジアム、「健都」など教育につながる新しい施設の増加</li> <li>色々な施設が身近にある</li> <li>自然体験施設の充実</li> <li>スポーツ施設利用料の改定・体育館・図書館の充実</li> <li>旧中西家住宅など文化財施設の活用</li> </ul> <p><b>サービスの充実がもたらす機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夢つながり未来館での中高生の居場所提供</li> <li>青少年に対する多様な自立支援のための相談窓口の設置</li> <li>公共施設を活用した高齢者の居場所の提供</li> <li>幅広い世代のニーズに対応した図書館サービスの提供</li> <li>幅広い図書館サービスの充実</li> <li>PC・スマホによる図書館情報の提供</li> <li>図書館ネットワークを利用したあらゆる分野の業務への資料提供</li> </ul>	<p><b>人口増がもたらす脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な住宅開発によってもたらされる急激な人口増</li> <li>短期的には増、長期的には減という現象がもたらす将来的な人口ビジョン策定の難しさ</li> <li>偏った地域の人口増による教室不足の懸念</li> </ul> <p><b>地域間格差がもたらす脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各小学校区の人口構成・施設等が異なることによる地域での活動内容の格差</li> <li>太陽の広場と地域間の諸条件の違い</li> <li>図書館未設置地域によるサービスの地域間格差</li> </ul> <p><b>人材にかかわる脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の指定管理制度によるノウハウの引き継ぎと雇用不安</li> <li>特殊な専門分野に精通した職員の減少</li> <li>優秀な人材の他市への流出</li> </ul> <p><b>施設にかかわる脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時等の公民館の管理運営体制</li> <li>図書館の業務委託と司書の専門性を発揮する事業展開</li> <li>博物館の収蔵スペース不足</li> <li>バリアフリーへの未対応</li> <li>中央図書館の耐震化</li> </ul> <p><b>情報発信力の弱さともなう脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公民館の若年層の利用が少ない</li> <li>情報発信力が乏しい</li> </ul>	<p><b>対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎改造等による教室の増室</li> <li>地域の関係団体や府教委等と連携し、教育格差・学校間格差の対応策を検討</li> <li>少人数学級、放課後学習支援事業の拡充</li> <li>教員の増員</li> <li>自動車文庫の定期的な巡回</li> <li>公民館・図書室への資料提供</li> <li>ノウハウの明文化</li> <li>仕書への記載</li> <li>適正な待遇の提供</li> <li>市の魅力をアピール</li> <li>災害時のマニュアル策定</li> <li>耐震化・バリアフリー化の促進</li> <li>新事業の検討</li> <li>公共施設の利用及び収蔵庫の増設</li> <li>ターゲットユーザーの明確化</li> <li>従来の広報媒体の高度化</li> <li>ウェブアクセスしやすさに配慮したホームページの一層の充実</li> <li>欲しい情報をいつでも、どこでも、誰でも、簡単に入手できる仕組みの整備</li> </ul>
	全国共通事項	<p><b>子どもを取り巻く社会状況にかかわる脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国からの旅行者の増加によるパンデミックの脅威</li> <li>子供たちへの感染症流行のリスク</li> <li>食品偽装など食の安全性低下が学校給食への不信につながる懸念</li> <li>ボール遊びの場が少ない</li> <li>青少年を取り巻く社会状況の変化</li> <li>課題を抱える青少年が自傷等にはやる心配</li> </ul> <p><b>家庭に潜む問題がもたらす脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の教育環境の低下</li> <li>保護者のモラルの低下</li> <li>児童虐待の増加</li> </ul> <p><b>地域のつながり方の希薄化がもたらす脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域とのつながり方の変化</li> <li>ボランティアの高齢化</li> </ul> <p><b>情報環境の変化にかかわる脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書籍以外のデータ媒体が主流となった時の図書館の対応</li> </ul>	<p><b>対応策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい知識と予防方法等の情報提供</li> <li>うがい、手洗いや等の衛生指導の徹底</li> <li>医療機関との連携</li> <li>給食食材の検査の徹底や市場の食品検査結果の確認の徹底</li> <li>運動場や体育館の開放</li> <li>ボール遊びのできる施設の設置</li> <li>青少年相談体制の更なる充実</li> <li>パソコン等のITを利用した家庭教育支援の充実</li> <li>乳幼児だけでなく幅広い子育て世代への相談体制の確立</li> <li>保育所・幼稚園と児童福祉施設、保健センターの連携体制の強化</li> <li>子どもサポートチーム事業の拡充</li> <li>地域住民のニーズをとらえた多様な活動機会を提供し、地域社会の再構築を促す</li> <li>高齢者ボランティアの継続的な支援</li> <li>新たなボランティア人材の養成と支援</li> <li>電子書籍の貸出しサービス、館内での電子図書館閲覧サービス、端末の貸出し等の実施</li> </ul>		

## 吹田市教育大綱

平成27年4月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3に基づき、吹田市及び吹田市教育委員会が互いに連携して教育行政を推進するために、以下の教育に関する理念と基本目標を「吹田市教育大綱」として策定します。

### 1 理念



すべての人々が生命をかがやかせて、人や社会とつながりながら、今を確かに生き抜き、近い将来を含めて、未来を拓く吹田の教育を進めます。

### 2 基本目標

本市の教育を推進するために、以下の3つの基本目標を定めます。

#### 基本目標1 総合的人間力の形成 ～学びを高め、健やかな心と体を育む教育～

小中一貫教育を基本として、子どもたちの確かな学力、豊かな心と健やかな体（総合的人間力）を育むとともに、すべての人々が生涯にわたって学び、楽しみ、個性や能力を発揮しながら自己実現を図る社会をめざします。

#### 基本目標2 社会全体の教育力の向上 ～支え合い、地域とともに歩む教育～

家庭、学校、地域、関係機関など多様な主体が、互いに連携・協力して、教育課題を共有しながらその解決を図り、地域に根ざした質の高い教育の創造をめざして社会全体で教育力の向上に取り組めます。

#### 基本目標3 豊かな教育環境の創造 ～豊かな学びを支援する教育環境～

安心と安全のもと豊かな空間で学び、生活できるように学校施設・社会教育施設・スポーツ施設の整備を図るとともに、信頼と責任のある教育環境を創造します。

平成27年（2015年）11月

吹田市長 後藤圭二